

2022年度 事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2022年度事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2022年度は、3年目となる新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、感染予防・衛生管理に努めていたものの二度の集団感染に見舞われました。幸い全員重症化せず回復しましたが、長期に亘り生活が制限され利用者の皆さんをはじめご家族も職員も大変な苦勞をしました。

懸案の将来展望については「みらい会議」を継続し、隔月計6回開催しました。全体像を押さえるとともに、5つの柱のそれぞれで具体策を模索しました。チャレンジ企画や職員の課題へのアプローチでは具体的な一步を踏み出せましたが、全体的には【基本的な課題】どうすれば職員を巻き込みながら具体策に取り組めるかについての認識に不十分さが見られ、今後は職員の主体性に期待したチーム編成から始めることになりました。

1. 理事会・評議員会について

2022年度に実施した理事会並びに評議員会の状況は次のとおりです。

開催年月日	機 関	決議事項
2022年 5月28日	理事会	2021年度事業報告及び決算の承認
		グループホーム用の車両の購入(変更)
		グループホーム等の給食業務委託契約の見直し 定時評議員会の招集
2022年 ※6月20日	定時評議員会	2021年度事業報告 2021年度決算の承認
		※コロナ集団感染のため決議の省略等としたが、当該決議等があったものとみなされた日
2022年 9月17日	理事会	経理規程の改定 給与規程の改定
2022年 11月26日	理事会	補償契約及び役員等損害賠償責任補償契約
		2022年度補正予算の同意 評議員会の招集
2022年 12月10日	評議員会	2022年度補正予算の承認
2023年 3月18日	理事会	評議員の退任及び候補者の推薦
		2023年度事業計画及び収支予算の同意
		2023年度職員体制 経理規程の改定
		契約の自動更新の承認 評議員会の招集
2023年 3月25日	評議員会	2023年度事業計画の承認
		2023年度収支予算の承認

2. 監事監査について

2022年度に実施した監事監査は次のとおりです。

第1回 2022年5月16日(紺野監事)、5月17日(平岡監事)

第2回 2022年9月1日(紺野監事) 9月2日(平岡監事)

第3回 2022年11月14日(紺野監事) 11月24日(平岡監事)

第4回 2023年3月1日(紺野監事) 3月3日(平岡監事)

3. 評議員選任・解任委員会

3月18日開催の理事会において任期満了前の評議員の退任及び補欠の評議員候補者の推薦について決議されましたので、評議員選任・解任委員会を3月23日に開催し、提案の通り決議しました。

4. 事業指定について

2022年度における事業指定の変更は次のとおりです。

(4月)

全ての事業所の運営規程を変更(虐待の防止のための措置に関する事項等)

(5月)

この実らいふネット、サービス管理責任者を変更

5. 事業運営について

2022年度に実施した事業の運営状況は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)10,042人 (平均利用者数)37.4人

(平均区分)4.5

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらっく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数)983人 (利用者実人数)18人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

1. 重点目標

重点目標①「利用者、保護者および現業職員に対する親切、丁寧な説明の励行。」については、事業所側の決定事項を画一的に伝えるのではなく、一つ一つの事案について相手側の立場を十分に配慮したうえで丁寧な説明をしていくことを目指しました。重点目標②「制度に則った適正な業務運営の保持。提供するサービスの質の向上。」については、規定に沿った個別支援計画の立案、運用を心がけるとともに、現場職員が個々の利用者への支援にやりがいを見出せるように、支援方針の決定過程により多く関わってもらうことを意識しました。

2. 個別支援計画

10月に前期分についての支援会議を実施し、支援の目標および具体的な支援の内容、留意点について、必要に応じた変更、修正を加えています。2月末より後期分についての支援会議を実施し、次年度の個別支援計画を作成しています。

3. 生活介護事業所すてっぷ

(1) 日中活動

【はたら〜く】

前年度から引き続いて、感染予防の観点から活動場所をサポートステーションの2階と地域交流ホームの1階に分散して日中活動を行いました

・主な活動内容:箱折り、創作、散策、レクリエーション、運動

【盤溪・森林農場】

職員配置3名。天候が悪い日は無理をせずに職員のみでの作業にする、参加する利用者を減らすなど安全面の配慮をしています。利用者、職員ともに活動中に大きな怪我をすることはありませんでした。

・主な活動内容:腐葉土生産・販売、環境整備、家畜の飼育、盤溪ウォーキング

・乗馬活動:利用者の中から希望者を募りグループ分けをして乗馬活動を実施しています(6月～10月)。当年度も落馬等の事故は発生しませんでした。

【余暇活動】

・前年度と同様に単一の活動内容に(ほぼ)全ての利用者が参加してもらう形式で実施しています。現場職員の打ち合わせの中で年間の活動案について出し合ってもらっています。

(2) 行事

・事業計画に沿って実施した行事:サポートまつり(9月)、クリスマス会(12月)、新年会(1月)

4. 保護者との連携

当年度も引き続き保護者との信頼関係を築きあげ、それを維持していくことを念頭に置いて

保護者との連携にあたりました。

・主な連携の取り組み：個別懇談（4期に分けて実施）、保護者会（12月）、送迎支援、コロナ感染への対応

5. 食事

利用者への「安全安心な食事の提供」のための配慮を怠らずに業務に当たりました。年度を通して事故等の発生はありませんでした。

6. 健康管理

コロナウイルスワクチンについては、5回目以降これまで依頼してきた協力医療機関がワクチン接種業務を終了したこともあり、通所利用者に対する集団接種の機会の提供は行っていません。接種を受けるかどうかの判断も各家庭に委ねることとなり、接種の斡旋も行いませんでした。

7. 短期入所りらく

単独型短期入所棟として、当年度も主に通所利用者の宿泊体験や、その家族の休息のために宿泊の受け入れを行いました。外部からの利用者については、コロナの感染拡大の状況を踏まえた上で、当年度内は受け入れを停止させてもらいました。

この実支援センター

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)9,333人 (平均利用者数)34.7人

(平均区分)4.5

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制

食事提供体制 送迎体制

新型コロナウイルスが猛威を振るう中でも、感染予防や感染防止に対する意識の高まりや、ハード面の整備が当たり前となり、施設内でも施設外でも安心安全に過ごす方法が確立されてきた一年でした。その中で出来ることを見出し、個別での外出が十分に出来ない中、新型コロナウイルスの感染状況をみながらではありましたが、感染予防を十分に行なったうえで、月に一度は外出や昼食会などの行事を実施し、利用者さんが外に出る機会を提供するよう心掛けました。

一方でまた、数年続いたコロナ禍により外に出る機会が減少したことや、加齢による運動不足・肥満が表出してきた一年でした。加えて転倒リスクも高まってきたため、午前や午後の活動を通して体を動かせるように取り組みました。そのため今年度は、年齢や体力を考慮した取り組みとして、作業活動を継続しながら、レクリエーションや余暇活動を多く取り入れました。一方で見守り等、介助の程度を高めて事故防止に努め

ています。高齢化に伴う体力の低下などから、活動を提供する上で、事故防止や安全面の強化に努めました。

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数)3,425人 (平均利用者数)12.8人

(体制等)福祉専門職員配置等 施設外就労

昨年度の反省や経験を活かし、コロナ禍においてもほぼすべての活動を滞ることなく進めることが出来ました。グループホームの閉鎖に伴い、活動内容が大幅に変更となることがありましたが、利用者や保護者への説明をその都度行ない、大きな混乱はありませんでした。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス流行の影響を受け、見学の希望者が少なく、実習生に至っては0人となってしまいました。

今年度もコロナ禍ということもあり外出の機会を設けることがあまり出来ませんでした。新型コロナウイルス感染状況が落ち着いている時期には、エスコンフィールドの工事現場の見学や赤レンガテラスのビュッフェレストランでの新年会等、少ない回数ながらも利用者のニーズに沿った行事を計画することが出来ました。

コミュニティライフこの実

新型コロナウイルス感染症対策として、「手洗い・うがいの徹底」「外出の制限」「マスクの着用」等の新しい生活様式で感染予防に努め、新型コロナウイルス感染症を施設から出さないことを念頭に置き活動を組み立てました。

6月と11月にクラスターが発生してそれぞれ1ヶ月近く対応に追われました。

帰省については6月のクラスターが収束した後7月中旬より再開しています。

外出については8月下旬より順次感染対策を行いながら再開しています。

高齢化・重度化の対策では1名が病気による退所となり、また、認知症の症状が顕著になった方やてんかん発作が頻発するようになった方など支援の度合いが高くなった方についてそれぞれ引越しを伴った体制の変更や職員体制の見直しを行いました。

■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)48人 (共同生活住居)9ヵ所

(年間利用者延べ人数)17,037人 (平均利用者数)46.7人 (平均区分)4.1

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

帰省や、外出を制限する中で利用者の楽しみの活動を組み立てることが困難でしたが、感染者数の少ない時期に感染対策を行った上での夕食外出などのグループでの外出を行いました。また、2月以降は買物等の個別の外出も少しずつ行っています。

認知症の症状が顕著になった方やてんかん発作が頻発するようになった方など支援の度合いが高くなった方については、職員体制の厚いホームへ引越しするなどして対応しています。

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数)約 6,690人 (平均利用者数)18.4人 (平均区分)4.9

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数)95人 (利用者実人数)3人

(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

日中を「みなぼつけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けました。また、寝たきりになっていた方については、機能回復に向けた特別なプログラムを組み、一定の効果がありました。

予定の変更が苦手な、重度の障がいを持った方が多いホームですが、2度のクラスターの時期にも大きな混乱なく過ごすことが出来ました。

身体的な高齢化による介護度が上がってきた為、介護用の車いすを導入し、入浴用リフトを検討し令和5年度に導入する事になりました。

短期入所については、北の沢デイセンターからの依頼で令和5年1月より1名の男性利用者を受け入れています。

相談室みすくうえる

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)180件

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)0件

平成31年4月、社会福祉法人札幌この実会「相談室みすくうえる」を開設し、4年が

経ちます。

現在、契約件数は76名(札幌この実会32名、藻岩この実会40名、その他4名)でサービス利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを主に行っています。今年度は、11名(自法人の新規のケース1名、セルフプランからの移行1名、他の相談室からの移管4名、藻岩この実会の第2この実寮のケースで3名、ほっと相談センターからの他法人のケースを移管で2名)契約しています。

サービスを利用しなくなったケースもあり、西区平和に住んでいた2ケースが引っ越す事となり、これを機に、居宅介護のサービスを利用なくなりました。

契約しているケースで、グループホームと就労移行支援を利用し、令和4年12月に就職できたケースと、医療センターに入院されている親子のケースで、地域移行を希望されてますが、中々進まず、現在も入院中のケースがありました。

藻岩この実会とは連携をとり、令和5年度にも何名かの利用者を受け入れる予定になっています。

今年度は他の事業所への訪問がほとんど出来なかったもので、状況をみながらではありますが、事業所訪問や連携が取れるようにしていきたいと思います。

6. 地域における公益的な取り組みについては、

2022年度の地域における公益的な取り組みは、昨年度と同じくコロナ禍で限定的となりましたが、外作業班による地域貢献活動、福祉除雪、清掃活動、及び福祉総合相談について活動範囲・支援対象を狭めて行いました。

2022年度 決算の概要

社会福祉法人 札幌この実会

2022年度の事業活動計算では、法人合計(サービス活動+サービス活動外)で収益が約4億9014万円(※1)の一方、費用が約4億9097万円(※2)となり、経常増減差額はマイナス約83万円となりました。

(※1)…サービス活動収益・約4億8506万円+サービス活動外収益・約508万円

(※2)…サービス活動費用・約4億8699万円+サービス活動外費用・約398万円

次に当該差額に特別増減差額(プラス約7万円)を加算した当期活動増減差額はマイナス約76万円となり、更に国庫補助金等特別積立金のマイナス約840万円と合わせて、純資産は前年度から約916万円減少して約9億8714万円となりました。

前年度に比べ、収益がプラス約1368万円(※3)の一方、費用はプラス約2673万円(※4)となり、経常増減差額は前年度のプラス約1222万円から約1305万円減少しました。

(※3)…収益増の主な要因

【障害福祉サービス等事業収益】…プラス約1089万円

(日中活動:マイナス114万円、GH:プラス約1176万円、相談支援事業:プラス約27万円)

【経常経費寄附金収益】…プラス約298万円

(※4)…費用増の主な要因

【人件費】…プラス約2027万円 【事業費】…プラス約259万円

【事務費】…プラス約134万円

【減価償却費】+【国庫補助金等特別積立金取崩額】…プラス約223万円

資金収支計算では、補正予算に比べ、事業活動資金収支差額がプラス約387万円、施設整備等資金収支差額がプラス約146万円(※5)、その他の活動資金収支差額がプラス約367万円(※6)で、当期末支払資金残高はプラス約900万円の約1億8676万円(対前年度プラス約1281万円)となりました。

積立資産(退職給付引当資産を除く)は予算に基づく積み立て及び取り崩しを行い、約2億766万円(対前年度プラス約600万円)となりました。

(※5)…施設整備等資金収支差額増の主な要因

固定資産取得支出減約101万円 設備資金借入金元金償還支出予算計上過誤45万円

(※6)…その他の活動資金収支差額増の主な要因

退職金処理:退職給付引当資産取崩収入増約388万円 引当資産支出増約21万

また、2022年度の算定において、社会福祉充実残額(再投下可能な財産)は生じなかったことから、社会福祉充実計画の策定は不要となりました。

《2022年度の算定》

①「活用可能な財産」…325,797,585 円

②「社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等」…0 円

※計算の特例適用

③年間事業活動支出…468,658,752 円

社会福祉充実残額=①-(②+③)÷▲142,860,000 円

2022年度決算資料(概要)

社会福祉法人 札幌この実会

■事業活動計算書

※1万円未満四捨五入

	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
収 益	4億8506万円	4億7052万円	1454万円
費 用	4億8699万円	4億6039万円	2660万円
増減差額	▲193万円	1013万円	▲1206万円
サービス活動外増減の部			
収 益	508万円	594万円	▲86万円
費 用	398万円	385万円	13万円
増減差額	110万円	209万円	▲99万円
経常増減差額	▲83万円	1222万円	▲1305万円
特別増減の部			
収 益	7万円	275万円	▲268万円
費 用	0万円	280万円	▲280万円
増減差額	7万円	▲5万円	12万円
当期活動増減差額	▲76万円	1217万円	▲1293万円

■貸借対照表

※1万円未満四捨五入

【流動資産】	1億9963万円	【流動負債】	1287万円
【固定資産】	8億3527万円	【固定負債】	3489万円
《資産合計》	10億3490万円	【純資産】	9億8714万円
		対前年度	▲916万円

■資金収支計算書

※1万円未満四捨五入

	予算	決算	差異
事業活動による収支			
収 入	4億8184万円	4億9014万円	▲830万円
支 出	4億6422万円	4億6866万円	▲444万円
収支差額	1761万円	2148万円	▲387万円
施設整備等による収支			
収 入	7万円	7万円	0万円
支 出	400万円	254万円	146万円
収支差額	▲393万円	▲247万円	▲146万円
その他の活動による収支			
収 入	679万円	1067万円	▲388万円
支 出	1666万円	1687万円	▲21万円
収支差額	▲987万円	▲620万円	▲367万円
当期資金収支差額合計	381万円	1281万円	▲900万円

支払資金	1億8676万円	対前年度 1281万円増
積立資産	2億 766万円	対前年度 600万円増

実績の推移

年間利用者延べ人数		実 績					見 込
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
サポートステーション	生活介護	10,366	10,123	10,230	10,275	10,042	10,300
	短期入所	1,041	1,015	813	826	983	900
この実支援センター	生活介護	9,922	10,055	9,540	9,605	9,333	9,500
	就労継続B型	2,742	3,179	3,061	2,931	3,425	3,400
この実らいふネット	GH	22,955	20,181	16,457	17,055	17,037	17,700
この実みなぽっけ	GH		2,169	6,745	6,740	6,690	6,700
	短期入所		54	28	0	95	100
合計		47,026	46,776	46,874	47,432	47,605	48,600

事業活動計算	決 算					当初予算／加工
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
サービス活動収益	405,738,362	420,223,722	449,098,618	470,522,908	485,059,922	483,165,000
サービス活動外収益	5,699,839	5,198,446	8,254,685	5,941,145	5,080,524	4,750,000
収益合計（除・特別）	411,438,201	425,422,168	457,353,303	476,464,053	490,140,446	487,915,000
サービス活動費用	412,504,467	439,336,361	462,741,494	460,390,975	486,988,891	485,699,008
サービス活動外費用	4,933,243	4,577,128	4,306,620	3,853,929	3,983,563	3,852,000
費用合計（除・特別）	417,437,710	443,913,489	467,048,114	464,244,904	490,972,454	489,551,008
経常増減差額	-5,999,509	-18,491,321	-9,694,811	12,219,149	-832,008	-1,636,008
特別増減差額	-201,839	-4,722,198	4,444,801	-51,181	69,254	0
当期活動増減差額	-6,201,348	-23,213,519	-5,250,010	12,167,968	-762,754	-1,636,008

人件費	283,374,401	297,837,719	322,584,436	311,900,680	332,169,940	334,503,000
業務委託費		4,004,000	12,012,000	12,012,000	11,352,000	10,032,000
人件費合計	283,374,401	301,841,719	334,596,436	323,912,680	343,521,940	344,535,000

積立資産（年度末残高）	197,728,000	182,944,000	197,708,000	201,659,000	207,661,000	216,770,000
人件費積立資産	38,700,000	29,500,000	87,300,000	87,300,000	83,300,000	84,300,000
修繕積立資産	10,800,000	9,300,000	12,300,000	12,800,000	11,900,000	11,900,000
備品等購入積立資産	7,700,000	8,400,000	10,400,000	9,316,000	9,316,000	9,316,000
減価償却積立資産	122,628,000	122,244,000	55,308,000	60,843,000	67,745,000	75,854,000
建設積立資産	15,400,000	10,800,000	29,700,000	28,700,000	29,700,000	29,700,000
工賃変動積立資産	200,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
設備等整備積立資産	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
その他の積立資産	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	5,000,000	5,000,000

人件費積立資産	38,700,000	29,500,000	87,300,000	87,300,000	83,300,000	84,300,000
対前年度増減	-2,000,000	-9,200,000	57,800,000	0	-4,000,000	1,000,000